

気仙沼

復興状況など視察

アクサ生命の安淵社長ら

東日本大震災の被災地支援を続けるアクサ



菅原会頭から案内を受ける安淵社長ら

生命保険（本社・東京都）の安淵聖司社長らが4日、気仙沼市を訪

れ、菅原茂市長から復興状況などを聴き、内湾地区を視察した。

同社は、震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげることを目

的に、日本ユネスコ協会連盟と共同で減災教育プログラムを展開している。全国から集まった教員が先進事例などを学んでおり、気仙沼では階上中学校などの活動を取り上げてきた。寄付や奨学金などの事業も行っている。

この日は、安淵社長、幸本智彦副社長ら経営陣7人が市役所を訪れ、菅原市長、小山淳教育長と懇談。復興状況を聞き、直面して

いるコミュニケーションづくり、震災伝承など課題について意見を交わした。

気仙沼商工会議所の菅原昭彦会頭の案内で内湾地区を視察。市まち・ひと・しごと交流プラザでは、同施設が防潮堤をまたぐように建っていること、内湾地区の復興の見通しな

ど、市民が震災・防災とどう向き合っているかの説明を受けた。

安淵社長は「自然の仕組みを学び、予想することでも命が守られる。今後も気仙沼に足を運び、記憶・記録を発信することで、各地域が災害に強くなるよう支援を続けていきたい」と話した。

2020年3月6日 三陸新報掲載